

奈良県ニホンザル第二種特定鳥獣管理計画

令和5年(2023年)度モニタリング報告書

奈良県食と農の振興部農業水産振興課
奈良県森林技術センター森林資源課

令和6年(2024年) 1月

目 次

ニホンザルモニタリング調査の概要	1
1. 捕獲調査	2
2. 被害状況調査	3
3. 農業・林業集落アンケート調査(獣害アンケート調査)	6
4. 令和4年(2022年)度ニホンザルモニタリング調査結果報告まとめ	13
5. 奈良県ニホンザル生息状況調査	14
(参考資料)	
農業集落アンケート用紙(記入例)	15
林業集落アンケート用紙(記入例)	16

ニホンザルモニタリング調査の概要

奈良県ニホンザル第二種特定鳥獣管理計画(第1次)に基づき、同計画に掲載している下記の各種モニタリングを実施した。

1. 捕獲数調査

調査方法:有害捕獲 市町村からの報告を集計

2. 被害状況調査

①農業被害

調査方法:市町村からの報告(金額、面積)を集計

②農業被害対策の効果

農業・林業集落アンケート調査において防護柵の設置効果等を調査

3. 令和4年農業・林業集落アンケート調査(獣害アンケート調査)

調査方法:県内の農業または林業を営んでいる集落の代表者にアンケートを実施
実施集落:1,446 集落

調査様式:1)農業用アンケート用紙【P.14】

2)林業用アンケート用紙【P.15】

1. 捕獲数調査

○有害捕獲数

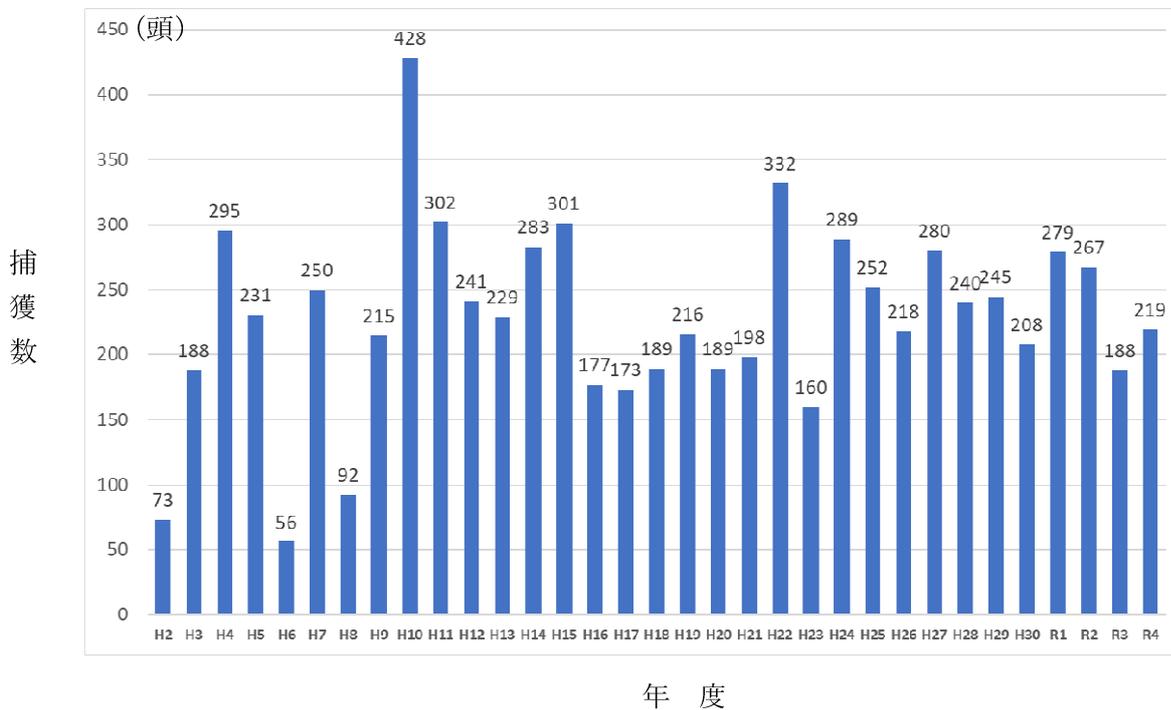


図1 ニホンザルの有害捕獲数の推移

サルは非狩猟鳥獣であるため、捕獲は全て有害鳥獣捕獲による許可に基づいて実施されている。平成10年度までは年度毎の捕獲数に大きく差があるが、平成11年度～令和4年度においては概ね150～300頭で推移している。捕獲数が突出する年度が見られるが、出没個体数の増加と関係があると思われる。

2. 被害状況調査

○農業被害

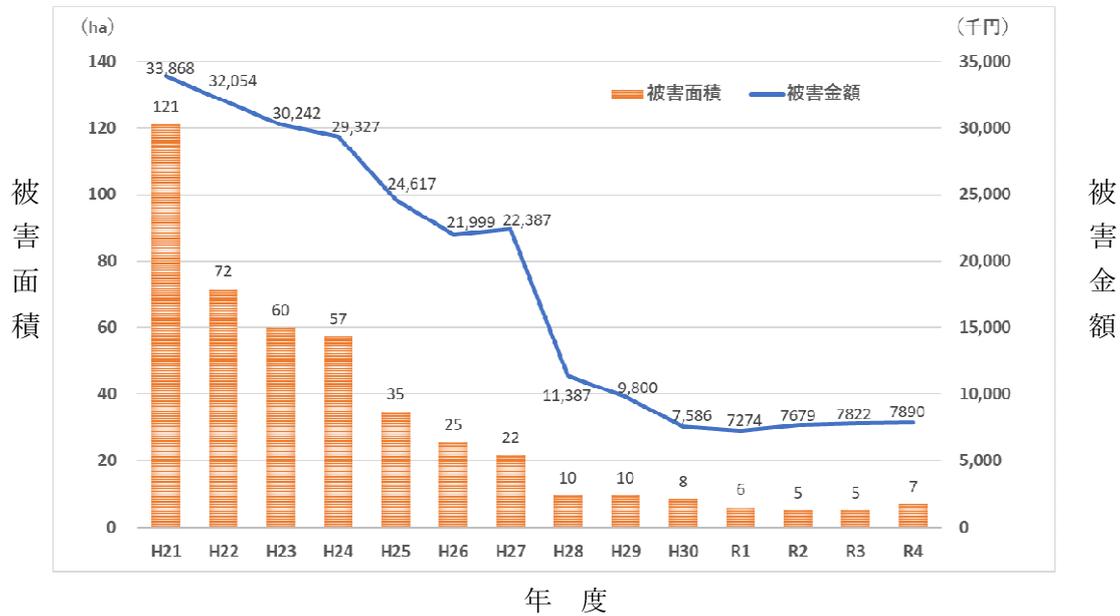


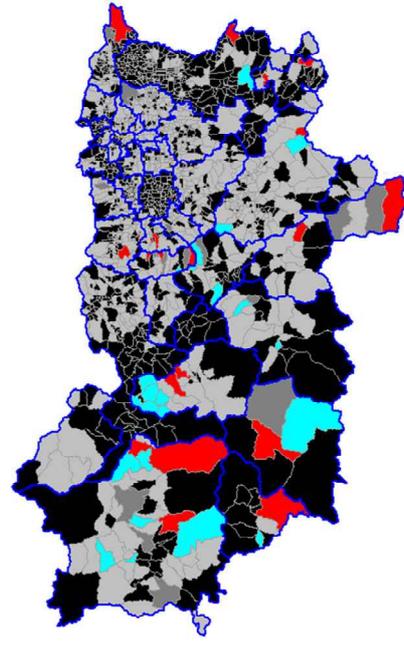
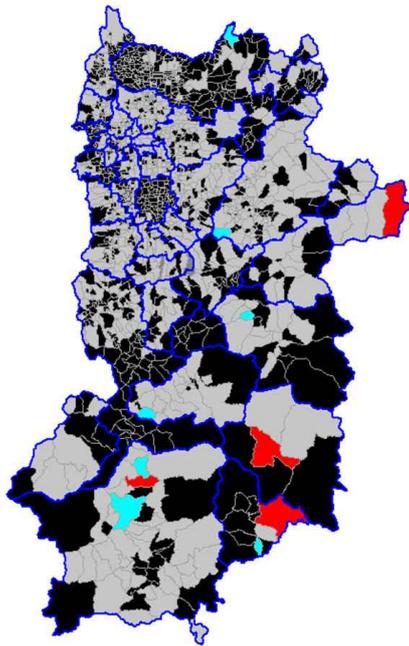
図2 ニホンザルの農業被害面積及び農業被害金額の推移

被害種別(面積・金額)の経年変化を図2に示す。面積及び金額ともに減少傾向であったが、近年は横ばいの状況となっている。金額において平成30年度～令和4年度では、700万円台で、面積においては平成28年度～令和4年度では、5～10haで推移している。

○サルの農業被害対策の効果

やぶ刈り払い

追い払い



	回答数	回答率
効果あり	4	36.4 %
効果なし	7	63.6 %
合計	11	100 %

	回答数	回答率
効果あり	21	48.8 %
効果なし	22	51.2 %
合計	43	100 %

図3 令和4年(2022年)度のサルの農業被害対策の効果(左:やぶ刈り払い/右:追い払い)

図3は農業・林業集落アンケート調査による、農業被害対策の効果の意識調査の結果である。やぶ刈り払いについて効果ありと回答した者は約36%、追い払いについて効果ありと回答した者は約49%であり共に過半数を下回っている。

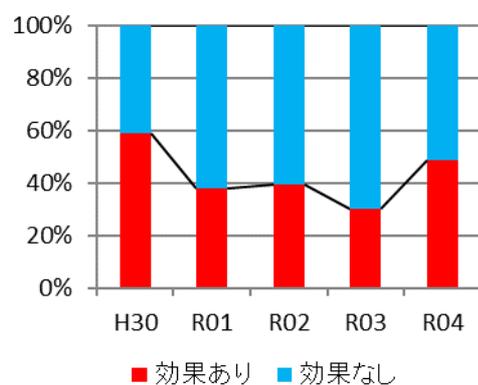
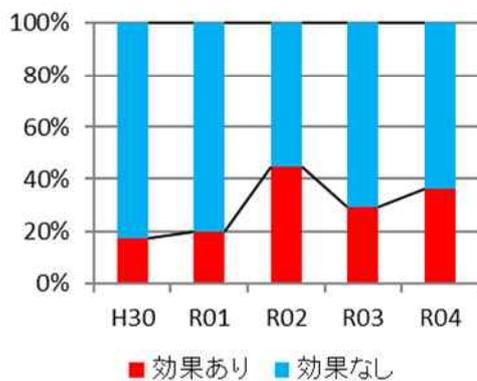


図4 農業被害対策の効果の各回答の占有率の経年変化(左:やぶ刈り払い/右:追い払い)

図4は各回答の占有率の経年変化を示したものである。

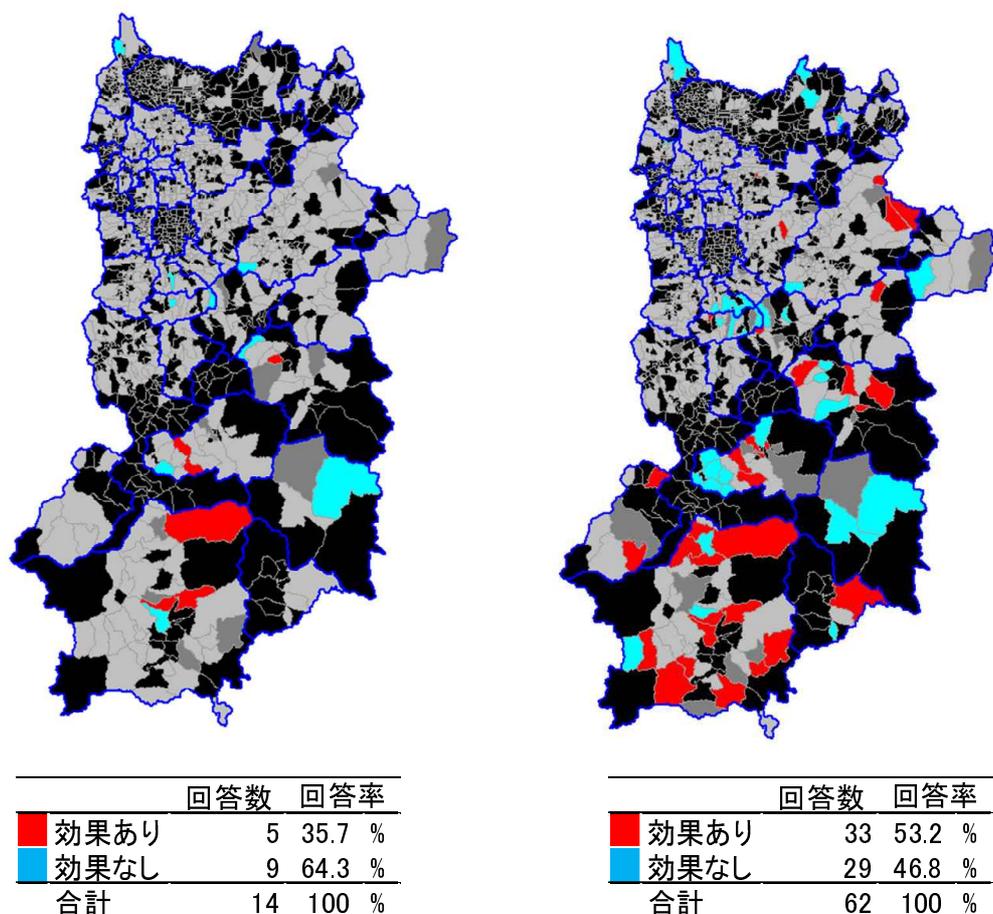


図5 令和4年(2022年)度のサルの農業被害対策の効果(左:有害捕獲/右:防護柵(侵入防止柵))

図5は農業・林業集落アンケート調査による、農業被害対策の効果の意識調査の結果である。有害捕獲について効果ありと回答した者は約36%、侵入防止柵について効果ありと回答した者は約53%であった。

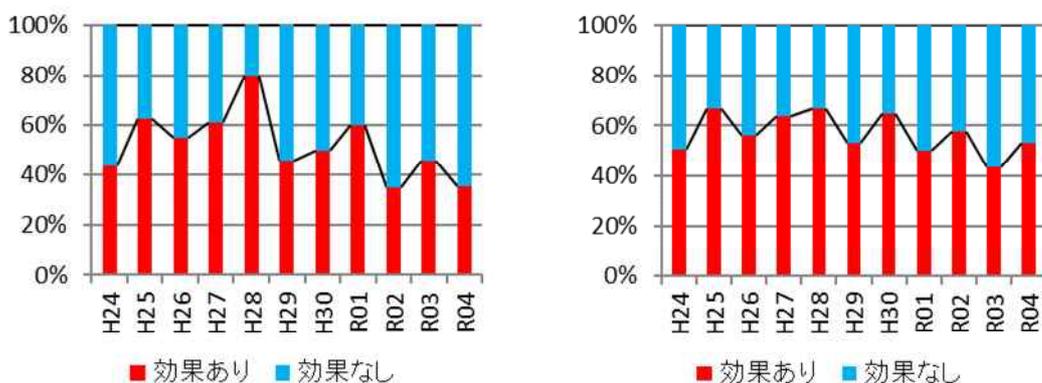
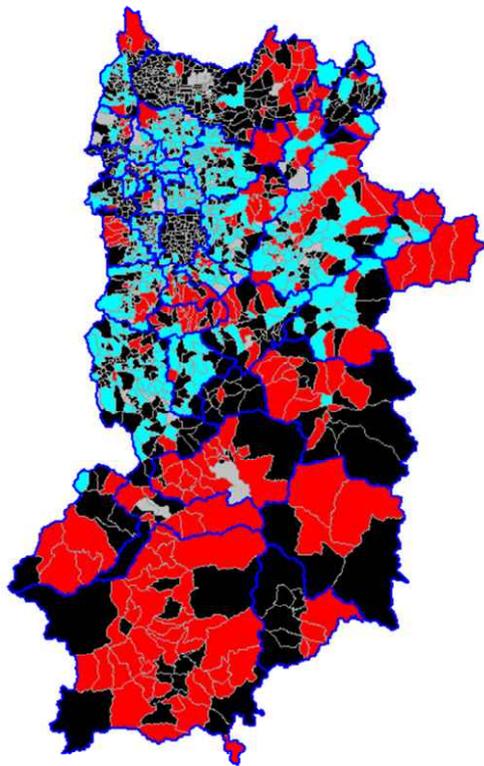


図6 農業被害対策の効果の各回答の占有率の経年変化(左:有害捕獲/右:防護柵(侵入防止柵))

図6は各回答の占有率の経年変化を示したものである。年度により変動はあるが、有害捕獲、侵入防止柵のいずれも一定程度効果が認められる。

3. 農業・林業集落アンケート調査(獣害アンケート調査)

○サル分布



回答数	
いる	230
いない	448
回答無し	51
回収無し	1079
合計	1808

離れザルの分布

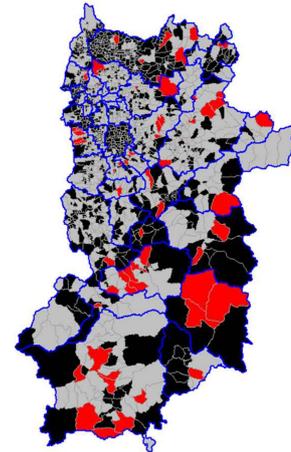


図7 令和4年(2022年)度のサルの分布

青線:市町村界 / 市町村界内側の線:大字・地区界 (※以降の図についても同様である。)

図7は集落アンケート調査によるサルの分布である。農業集落と林業集落の両方またはいずれかでサルが「いる」と回答があった場合に「いる」としており、「回収無し」には人が住んでいない集落も含まれる。

県北部奈良市の一部、県東部の宇陀地域から県南部の吉野郡にかけて群れが分布している既知の地域からサルが「いる」という回答があった他、県北西部の一部からもサルが「いる」という回答があった。また離れザルも、県北西部の一部、県東部の宇陀地域、県南部の吉野郡から「いる」という回答があった。

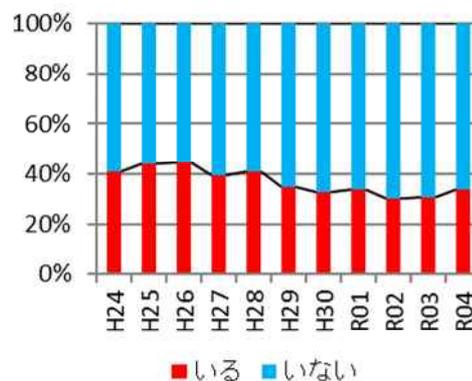


図8 サルの分布の経年変化

図8は各回答の占有率の経年変化を示したものである。

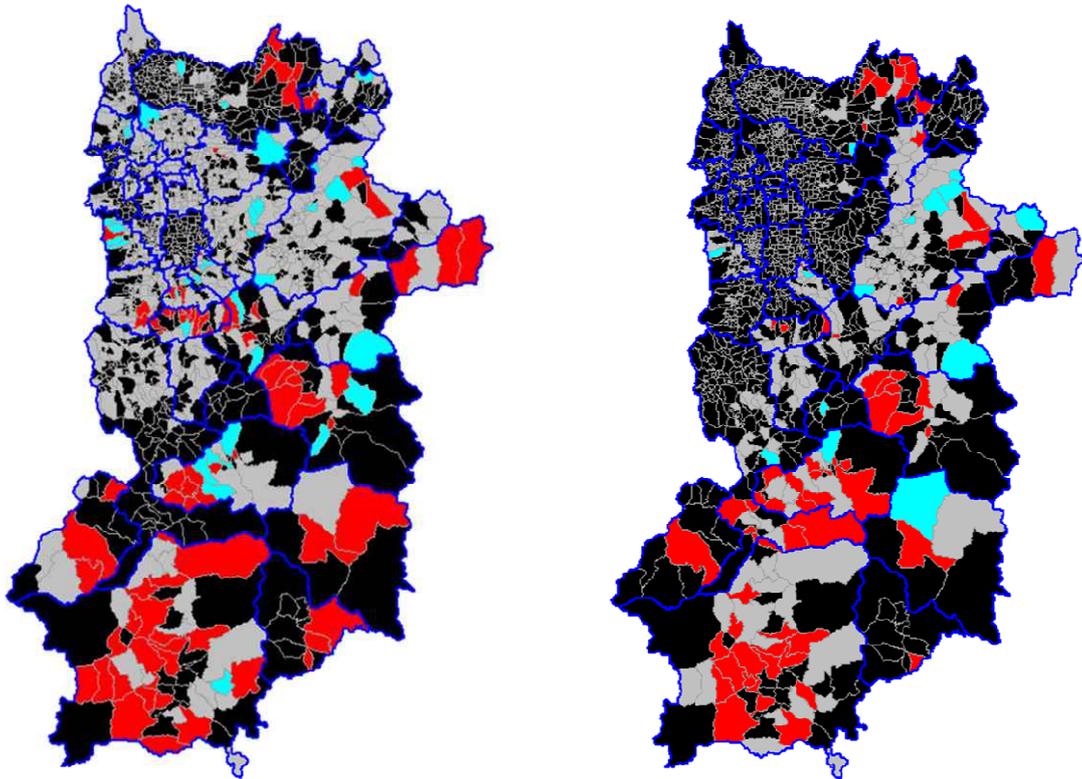
サルが「いる」という回答は横ばい傾向にある。

(※以降の項目については、サルが「いる」と回答があり、かつ各設問の回答があった集落の内訳を示す。)

○サルの群れの分布

農地・集落周辺

山林・奥地森林



回答数	
■ いる	86
■ いない	41
合計	127

回答数	
■ いる	63
■ いない	15
合計	73

図9 令和3年(2021年)度のサルの群れの分布 (左:農地・集落周辺/右:山林・奥地森林)

図9は集落アンケート調査によるサルの群れの分布である。

県北部奈良市の一部、県東部の宇陀地域から県南部の吉野郡にかけて群れが分布している既知の地域からサルの群れが「いる」という回答があった。一方、県北西部等で、サルは「いる」がサルの群れは「いない」という回答があった。

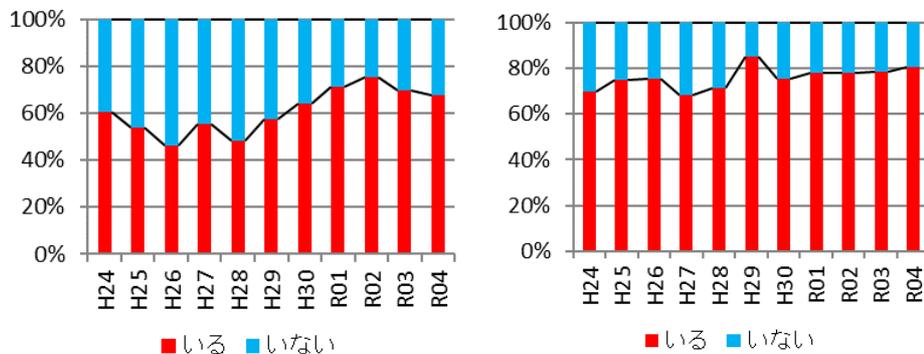
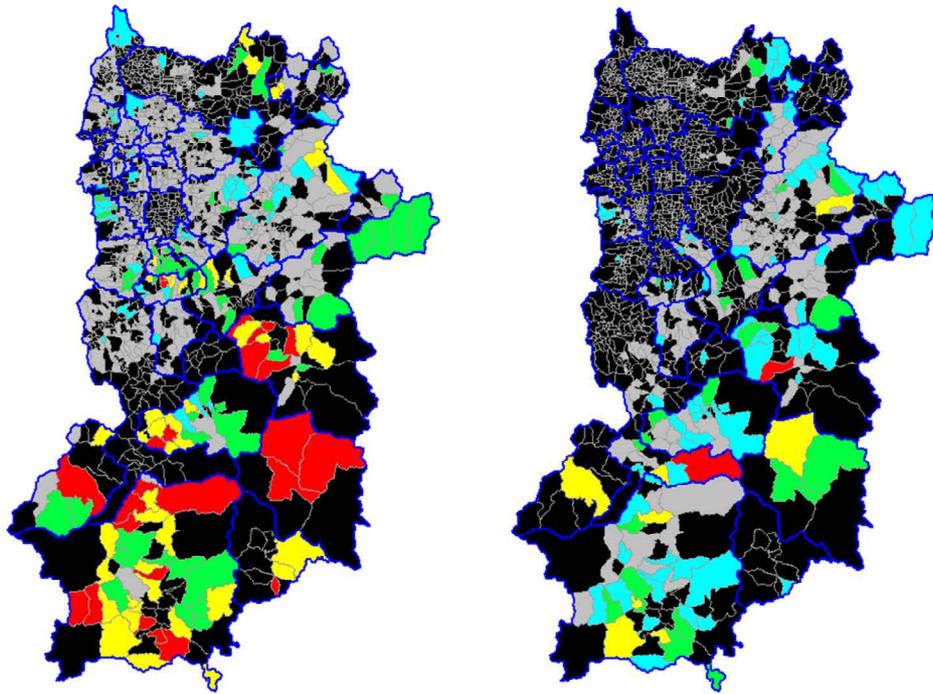


図10 サルの群れの分布の経年変化 (左:農地・集落周辺/右:山林・奥地森林)

図10は各回答の占有率の経年変化を示したものである。

農地にサルの群れが「いる」という回答は令和2年より減少傾向で、山林にサルの群れが「いる」という回答は高止まりで推移している。



	回答数	回答率
深刻	25	13.3 %
大きい	44	23.4 %
軽微	60	31.9 %
ほとんど無い	59	31.4 %
合計	188	100 %

	回答数	回答率
深刻	2	1.8 %
大きい	8	7.3 %
軽微	24	21.8 %
ほとんど無い	76	69.1 %
合計	110	100 %

図 11 令和4年(2022年)度のサルによる農林業被害の大きさ(左:農業/右:林業)

図 11 は農林業被害の大きさの意識調査の結果である。

被害が「大きい」または「深刻」の回答が、農業で約37%、林業で約9%となり、農業に関してはサルによる被害意識は大きいことがわかる。「軽微」の回答も含めると約69%となり、広い地域でサルによる農業被害が認識されていることがわかる。

農業

林業

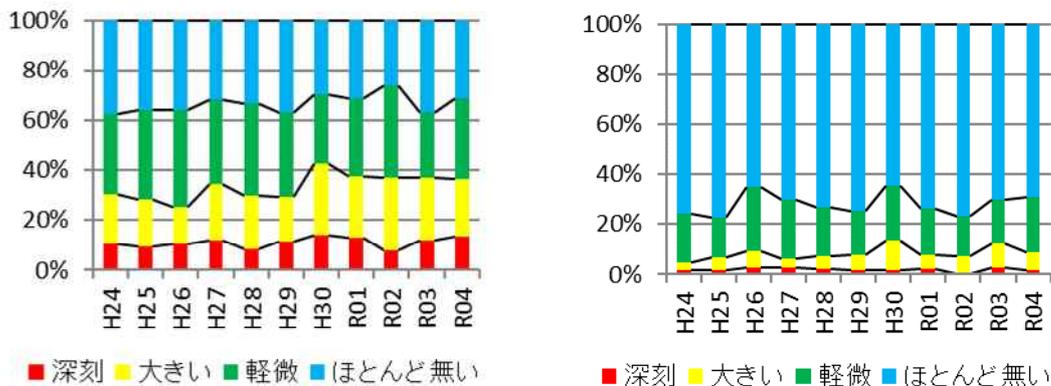
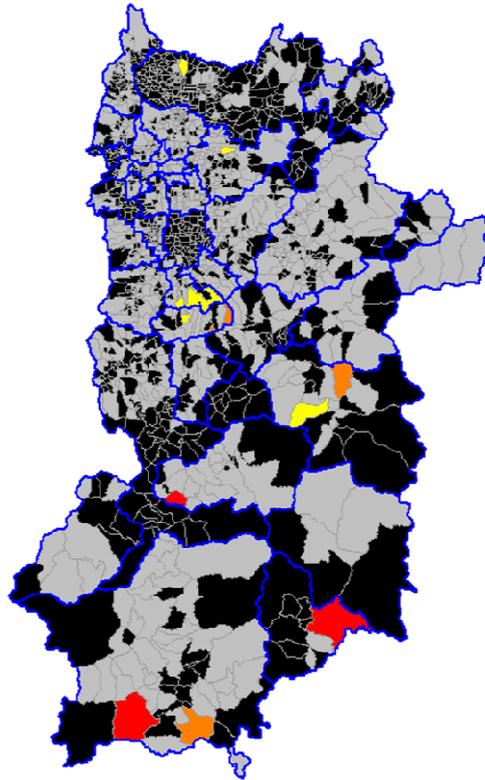


図 12 被害程度の各回答の占有率の経年変化(左:農業/右:林業)

図 12 は各回答の占有率の経年変化を示したものである。

被害が「深刻」の回答が、農業で緩やかな増加傾向にある。

○サルによる農地・集落周辺での人的被害



	回答数
住居侵入や器物破損	5
人を威嚇・襲う	4
上記の両方	3
合計	12

図 13 令和4年(2022年)度のサルによる農地・集落周辺での人的被害

図 13 はサルによる農地・集落周辺での人的被害調査の結果である。

サルの群れが「いる」という回答があった県南部の吉野郡で「住宅侵入や器物破損」、「人を威嚇・襲う」およびその両方について回答があった。一方、県北部の離れザルが「いる」という回答があった地域で、「住宅侵入や器物破損」、「人を威嚇・襲う」の回答があった。

	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R01 (2019)	R02 (2020)	R03 (2021)	R04 (2022)
住居侵入や器物破損	8	7	11	6	4	8	6	6	7	5	5
人を威嚇・襲う	3	5	8	5	5	8	9	10	8	5	4
上記の両方	5	1	8	5	0	2	5	3	5	6	3
合計	16	13	27	16	9	18	20	19	20	16	12

表 1 サルによる農地・集落周辺での人的被害の経年変化

表 1 は各回答の回答数の経年変化を示したものである。

サルによる農地・集落周辺での人的被害についての回答数は減少傾向にある。

○サルによる農林業被害の増減

農業

林業

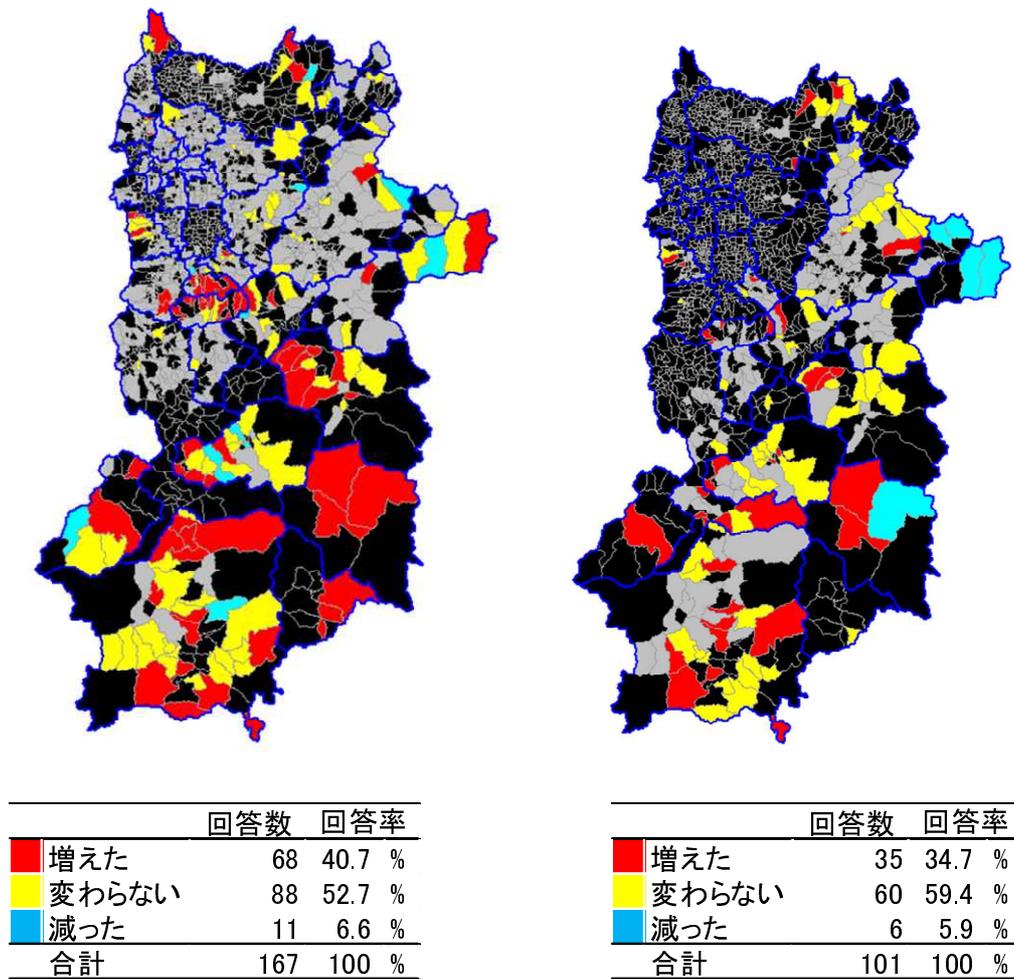


図 14 令和4年(2022年)度のサルによる農林業被害の増減 (左:農業/右:林業)

図 14 は前年と比較した農林業被害の増減の意識調査の結果である。

農業被害が前年と比べて「増えた」という回答が約41%にのぼる一方、「減った」という回答は約7%と、被害が増加していると認識する地域の方が多いことがわかる。林業被害については、「増えた」という回答が約35%であるのに対し、「減った」という回答は約6%と農業と同様の傾向がみられる。

農業

林業

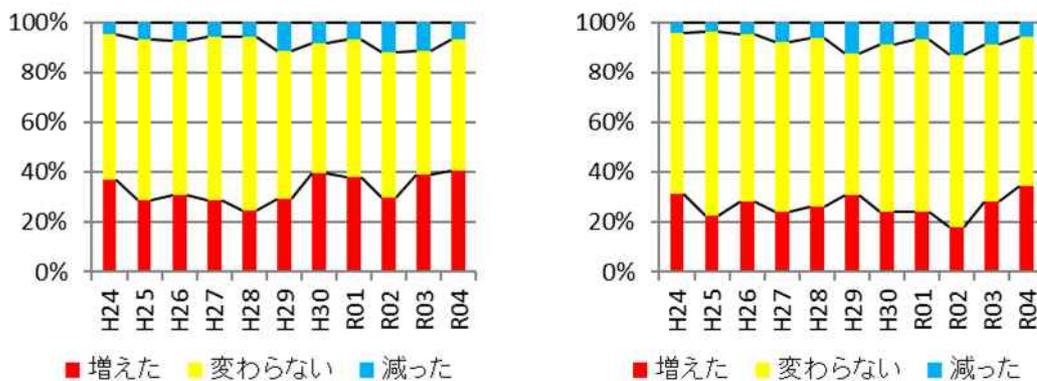
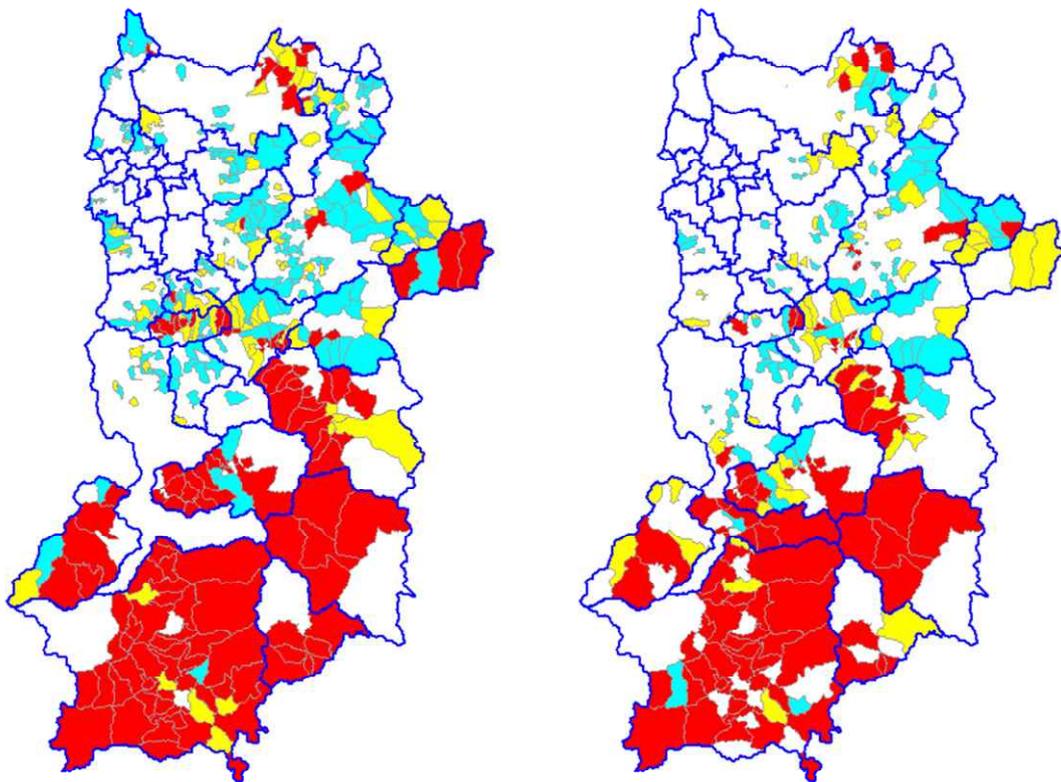


図 15 被害の増減の各回答の占有率の経年変化 (左:農業/右:林業)

図 15 は各回答の占有率の経年変化を示したものである。

農林業被害ともに「増えた」という回答はおおよそ 20%から 40%の間で推移している一方で、「減った」という回答は 0%から 20%の間で推移している。



	回答数	回答率
よく見る	124	32.6 %
たまに見る	84	22.1 %
あまり見ない	172	45.3 %
合計	380	100 %

	回答数	回答率
よく見る	88	36.7 %
たまに見る	64	26.7 %
あまり見ない	88	36.7 %
合計	240	100 %

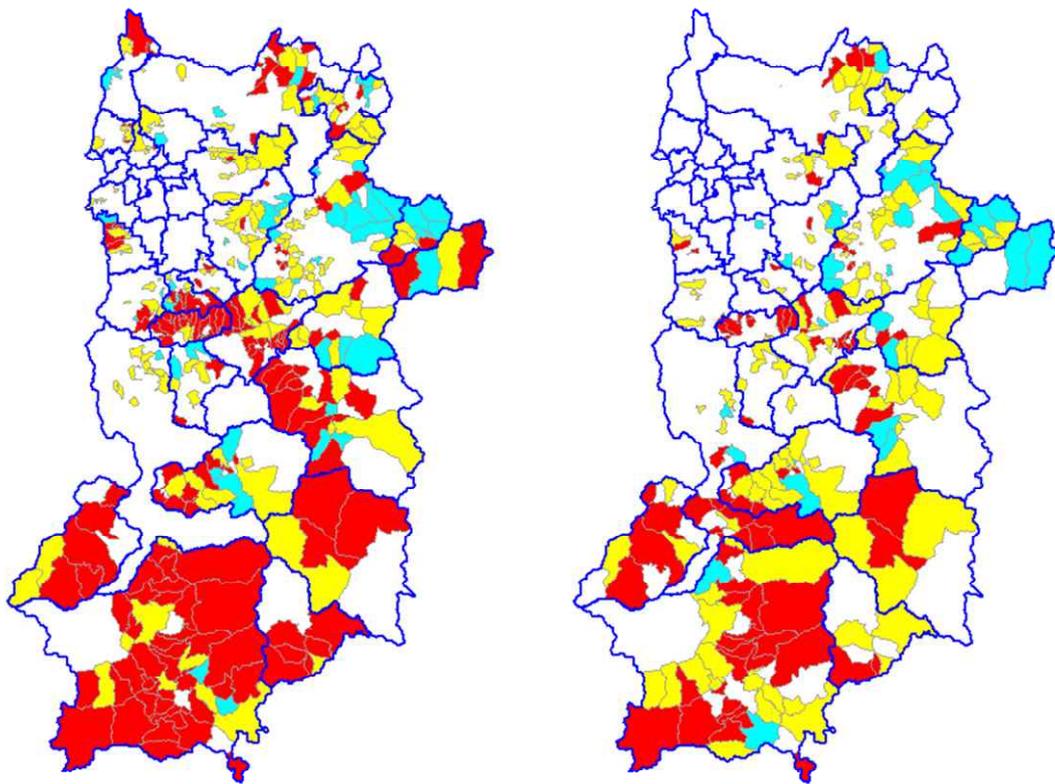
図 16 令和4年(2022年)度までのサルの出没動向(左:農地・集落周辺/右:山林・奥地森林)

図 16 はサルの農地・集落周辺と山林・奥地森林への出没の 5 年間の動向である。

各回答を「よく見る」+1、「たまに見る」±0、「あまり見ない」-1 とポイント化して集落毎に合計し、プラスになる場合(「よく見る」が多い場合)は赤色、0 になる場合(「たまに見る」になる場合)は黄色、マイナスになる場合(「あまり見ない」が多い場合)は青色で各集落を色分けした。5年間で1度でも回答があった場合を集計している。空白は調査した5年間、サルがいない、無回答、集落に人が住んでいないのいずれかである。

農地・集落周辺への出没は、県南部吉野郡で多い地域が目立つ他、県北部、県東部の一部で多い地域が見られる。一方で県北西部は一部で「たまに見る」地域がある他は少ない傾向にある。

山林・奥地森林での出没は、農地・集落周辺と同様に、県南部吉野郡で多い地域が目立つ他、県北部、県東部の一部で多い地域が見られる。一方で県北西部は少ない傾向にある。



	回答数	回答率
■ 増えた	157	44.6 %
■ 変わらない	144	40.9 %
■ 減った	51	14.5 %
合計	352	100 %

	回答数	回答率
■ 増えた	82	34.5 %
■ 変わらない	124	52.1 %
■ 減った	32	13.4 %
合計	238	100 %

図 17 令和4年(2022年)度までのサルによる農林業被害意識の動向(左:農業/右:林業)

図 17 はサルによる農林業被害の意識の 5 年間の動向である。

各回答を「増えた」+1、「変わらない」±0、「減った」-1 とポイント化して集落毎に合計し、プラスになる場合(「増えた」場合)は赤色、0 になる場合(「変わらない」場合)は黄色、マイナスになる場合(「減った」場合)は青色で各集落を色分けした。5 年間で 1 度でも回答があった場合を集計している。空白は調査した 5 年間、サルがいない、回答がない、集落に人が住んでいないのいずれかである。

サルによる農業被害の意識は、県南部吉野郡で被害が増えているという回答が目立ち、他地域からも被害が増えているという回答が得られた。一方被害が減っているという回答は、県東部宇陀地域の三重県境に接する地域その他、吉野郡の北部地域等からも得られた。

サルによる林業被害の意識は、農業被害同様、県南部吉野郡で被害が増えているという回答が目立つが、変わらないという回答が農業被害と比較するとやや多い。一方被害が減っているという回答は、農業被害同様、県東部宇陀地域の三重県境に接する地域その他、吉野郡の北部地域等からも得られた。

4. 令和5年(2023年)度奈良県ニホンザルモニタリング調査結果報告まとめ

1. 生息動向

・農業・林業集落アンケート調査において、これまでと同様に、県北部奈良市の一部、県東部の宇陀地域から県南部の吉野郡にかけて群れが分布していると思われる。また、県北西部の一部、県東部の宇陀地域から県南部の吉野郡において、離れザルが目撃されている。

・農地・集落周辺への出没は、県南部吉野郡で多い地域が目立つ他、県北部、県東部の一部で多い地域が見られる。一方で県北西部は少ない傾向にある。

・山林・奥地森林での出没は、農地・集落周辺と同様に、県南部吉野郡で多い地域が目立つ他、県北部、県東部の一部で多い地域が見られる。一方で県北西部は少ない傾向にある。

2. 捕獲

・令和4年(2022年)度の有害捕獲数は219頭であった。平成11年度～令和4年度においては概ね150～300頭で推移しており、令和4年度もその範囲内であった。

3. 被害状況

・市町村からの報告による農業被害について、面積及び金額ともに減少傾向であったが、近年は横ばいの状況となっている。金額において平成30年～令和4年では、700万円台で、面積においては平成28年～令和4年では、5～10haで推移している。

・農業・林業集落アンケート調査では、農業被害の意識は、県北部奈良市の一部、県東部の宇陀地域から県南部の吉野郡にかけて認識されており、依然として農業被害が生じている。

・農地・集落周辺での「住宅侵入や器物破損」、「人を威嚇・襲う」の人的被害が生じている。

・農業被害意識の動向は、県南部吉野郡で被害が増えているという回答が多い。

4. まとめ

・これまでと同様に、県北部奈良市の一部、県東部の宇陀地域から県南部の吉野郡にかけて群れが分布しており、農業被害について、面積及び金額ともに近年は横ばいの状況となっているが、依然として被害が生じている。

・県北西部の一部、県東部の宇陀地域から県南部の吉野郡において、離れザルが目撃されており、今後の生息動向に注意が必要である。

・被害防止対策として「生息環境の管理」「防護柵の設置」「個体数調整」「人材育成」に加えて、「誘因物の除去」「追い払い」について実施していく。

・農業被害が生じている地域は、効果的な防護柵の設置を推進するとともに、既存の柵についても上部に電気柵を追加するなどの対策を行う。また、集落ぐるみによる被害防除対策についても推進していく。

5. 奈良県ニホンザル生息状況調査

1. 現計画

奈良県ニホンザル第二種特定鳥獣管理計画第1次計画

始期:令和3年4月1日

終期:令和8年3月31日

2. 調査計画

- ・目的 奈良県ニホンザル第二種特定鳥獣管理計画第2次計画(令和8年4月1日～令和13年3月31日)を策定するため。
- ・調査期間 令和5年度から令和7年度の3年間
- ・調査対象地域 奈良県ニホンザルモニタリング調査結果で「群れが分布していると思われる」と判断された地域にある市町村
令和4年度奈良県ニホンザルモニタリング調査結果 18市町村
(奈良市、天理市、五條市、宇陀市、山添村、曾爾村、御杖村、吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村、下北山村、上北山、川上村、東吉野村)
- ・調査スケジュール 地形や幹線道路の整備状況を踏まえ、調査が効率的に実施できるよう対象市町村を3グループに分ける。1年度で1グループの調査を実施し、3年間ですべての対象市町村の調査を終える。
令和5年度(実績)・・・五條市、下市町、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村
令和6年度(予定)・・・吉野町、大淀町、下北山村、上北山、川上村、東吉野村
令和7年度(予定)・・・奈良市、天理市、宇陀市、山添村、曾爾村、御杖村
- ・調査方法 業務委託

3. 調査内容

(1) 市町村へのヒアリング調査

- ・生息状況、被害状況、防除対策・捕獲状況、交雑種の確認状況等についてヒアリング調査の実施

(2) 出没カレンダー調査

- ・サル出没が確認されている集落で、集落の調査協力員が1ヶ月間、一斉にニホンザルの出没を調査票へ記録する。
- ・調査項目は、出没日時、地名、確認方法、目視頭数、推定頭数、子ザルの有無、被害の有無、ニホンザルの行動、人への反応、季節的なサル出没動向、尻尾の長いサルの有無等。

(3) ルートセンサス調査

- ・出没カレンダー調査を補完するルートセンサスを実施
- ・出没カレンダー調査と同一の対象地域、調査時期に実施
- ・受託業者の調査員が実施し、群れ等を直接観察する。必要に応じ地域へのヒアリングも実施する。

(4) 森林地域の生息状況調査

- ・森林組合等にアンケート調査を実施

(5) その他調査

- ・(1)～(4)の他に必要な調査がある場合に実施

(6) 取りまとめ予定

- ・令和7年11月30日

奈良県 市・町・村 地区

記入者 氏名

住所

郵便番号

郵便番号は必ず記入してください

(電話番号や住所などの情報は地図の作成や、万一遭害が認められた時のためにご記入いただいております。お名前をほか一切外部に出すことはありません。)

農業用

今年度を振り返っていくの農業者情報は

最も重要な情報 重要・軽微の一つ

他年度の情報が重要 資料に参照はない

他の重要な情報は ()

令和3年度の養い

カキ (養い・半年度・出荷) (不明・軽微なし)

防護網

ネット布 あり なし

電気柵 あり なし

金網柵 あり なし

トタン柵 あり なし

養蚕用の柵 あり なし

その他の柵 ()

主な設置者

個人 集落

設置している割合

農地の約 50 %を囲っている

農地の約 30 %を囲っている

農地の約 20 %を囲っている

農地の約 10 %を囲っている

ほとんど見ない

ほとんど見ない

ほとんど見ない

ほとんど見ない

ヤマビルについて教えてください

農作業・子どもの夏休みの作業でヤマビルは?

最近(年単位)では

多い

増えている

変わらない

減っている

ほとんど見ない

ほとんど見ない

ほとんど見ない

対象動物	令和3年度の農業被害	販売額に対する農業被害額	主な被害作物(いくつでも)	被害の増減	令和3年度の動物の増減	令和3年度の出没	実施した被害対策とその効果(元年度)	その他気づきの点や工夫など ご自由にお書き下さい
シカ	農業被害は <input type="checkbox"/> ほとんどない <input type="checkbox"/> 軽微 <input checked="" type="checkbox"/> 重い →(右は記入不要)	販売額(JA直売所など)のおよそ(25%) 自家用(家庭菜園、家庭菜園など)のおよそ(50%)	<input type="checkbox"/> 水稲 <input checked="" type="checkbox"/> 野菜 <input type="checkbox"/> 果樹 <input type="checkbox"/> 家庭菜園 <input type="checkbox"/> その他	令和2年度より <input type="checkbox"/> 増えた <input checked="" type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減った	令和2年度より <input type="checkbox"/> 増えた <input checked="" type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減った	農地・菜園の周辺で <input checked="" type="checkbox"/> よく見る <input type="checkbox"/> たまに見る <input type="checkbox"/> あまり見ない	やぶ刈払(効果は) あった <input checked="" type="checkbox"/> 効果は <input type="checkbox"/> 効果は <input type="checkbox"/> 効果は 有害捕獲(7頭ぐらい、分らない) あった <input type="checkbox"/> その他(効果は) あった <input type="checkbox"/> 何もしなかった	
イノシシ	農業被害は <input type="checkbox"/> ほとんどない <input type="checkbox"/> 軽微 <input checked="" type="checkbox"/> 大きい(生量の30%未満) <input type="checkbox"/> 深刻(生量の30%以上)	販売額(JA直売所など)のおよそ(17%) 自家用(家庭菜園、家庭菜園など)のおよそ(9%)	<input type="checkbox"/> 水稲 <input type="checkbox"/> 野菜 <input type="checkbox"/> 果樹 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭菜園 <input type="checkbox"/> その他	令和2年度より <input type="checkbox"/> 増えた <input checked="" type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減った	令和2年度より <input type="checkbox"/> 増えた <input checked="" type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減った	農地・菜園の周辺で <input type="checkbox"/> よく見る <input type="checkbox"/> たまに見る <input checked="" type="checkbox"/> あまり見ない	やぶ刈払(効果は) あった <input type="checkbox"/> 効果は <input type="checkbox"/> 効果は <input type="checkbox"/> 効果は 有害捕獲(8頭ぐらい、分らない) あった <input type="checkbox"/> その他(効果は) あった <input type="checkbox"/> 何もしなかった	翌や土手の管理は <input type="checkbox"/> ほとんどない <input checked="" type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 大きい <input type="checkbox"/> 深刻 餌を食む餌がいろいろある(約3.0cm以上の尻尾)
サル	農業被害は <input type="checkbox"/> ほとんどない <input type="checkbox"/> 軽微 <input checked="" type="checkbox"/> 大きい(生量の30%未満) <input type="checkbox"/> 深刻(生量の30%以上)	販売額(JA直売所など)のおよそ()%	<input type="checkbox"/> 水稲 <input type="checkbox"/> 野菜 <input type="checkbox"/> 果樹	令和2年度より <input type="checkbox"/> 増えた <input checked="" type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減った	令和2年度より <input type="checkbox"/> 増えた <input checked="" type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減った	農地・菜園の周辺で <input type="checkbox"/> よく見る <input type="checkbox"/> たまに見る <input type="checkbox"/> あまり見ない	やぶ刈払(効果は) あった <input type="checkbox"/> 効果は <input type="checkbox"/> 効果は <input type="checkbox"/> 効果は 有害捕獲()頭ぐらい、分らない) あった <input type="checkbox"/> その他(効果は) あった <input type="checkbox"/> 何もしなかった	餌を食む餌がいろいろある(約3.0cm以上の尻尾)
アライグマ	農業被害は <input type="checkbox"/> ほとんどない <input checked="" type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 大きい(生量の30%未満) <input type="checkbox"/> 深刻(生量の30%以上)	販売額(JA直売所など)のおよそ(18%) 自家用(家庭菜園、家庭菜園など)のおよそ(15%)	<input type="checkbox"/> 水稲 <input type="checkbox"/> 野菜 <input type="checkbox"/> 果樹	令和2年度より <input type="checkbox"/> 増えた <input checked="" type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減った	令和2年度より <input type="checkbox"/> 増えた <input checked="" type="checkbox"/> 変わらない <input type="checkbox"/> 減った	農地・菜園の周辺で <input type="checkbox"/> よく見る <input type="checkbox"/> たまに見る <input type="checkbox"/> あまり見ない	やぶ刈払(効果は) あった <input type="checkbox"/> 効果は <input type="checkbox"/> 効果は <input type="checkbox"/> 効果は 有害捕獲()頭ぐらい、分らない) あった <input type="checkbox"/> その他(効果は) あった <input type="checkbox"/> 何もしなかった	餌を食む餌がいろいろある(約3.0cm以上の尻尾)

記入例

農業被害アンケートは
裏面もあります
ご協力をお願いします

「いる」「いない」のどちらかに必ず白を付けてください

外国から来た動物(アライグマ・ヌートリア)については、おおよその時期でもよいので、集落・農地で見られるようになった時期を記入して下さい。

裏面のご記入もよろしくお願ひします。

